

平成20年度第4回定例会報告

議会報告

南北交通・放置自転車対策 特別委員会で視察

昨年末、11月27日から12月15日まで、区議会第4回定例会が開催されました。

一般質問では、福祉・教育・環境の分野で、重要な問題が指摘され、各委員会でも活発な議論が行われました。ここでその内容の概要をご報告します。

①予算関連

来年度の予算編成方針について、いくつか質問がありました。ポイントとは、19年度末の決算で、特定目的基金残高が六六、〇四八百万円に對して、区債残高が二九、四九三百万円と基金が三六、五五五百万円上回るなかで、有効な予算編成とは何か。もっと執行予算に組み入れるべきでは、という質問がいくつかありました。

ただし、私の見解は、平成21年度に区内の小中学校の耐震工事が終了後、その他の公共施設の改修計画に平成22年から10年間で七〇億円ほど掛る計算がありますので、今後の予算編成は、教育や福祉分野など必要なものとそうでないもののメリハリをつけて、効率的かつ慎重に行うことが大事であると考えます。

②教育・福祉・医療関係

この分野は多くの課題があり、

議論百出ですが、特に時間を取った課題は、来年度からモデル的に始まる「江東区放課後対策子どもプラン」のことです。ポイントは、現在ある45の学童クラブと、放課後対策事業です。8校で実行されている「げんきっず」の事業を統合して、江東区版の新しいプランを計画することへの疑問です。

果たして学童の機能が維持できるのか、現在の学童クラブはどうなるのか、疑問点が多々残った状況でした。私の見解は、機能低下の統合は全く意味がなく、辞めるべきです。しかし放課後対策事業と統合することにより、子供達の教育環境がレベルアップするのであれば賛成です。重要な点は慎重に議論して、曖昧なところを残さないことでしょう。

その他、来年度から新しくなる介護保険事業計画の問題や、墨東病院の周産期医療を含めた医療体制の問題、豊洲に新しい総合病院を建設することなどが議論されました。

また教育分野では、小一支援の事業を拡大すべきと指摘し、そのた校庭の芝生化の推進、学校教育評価の在り方などについて主に議

論されました。

③中小企業対策

この分野では、やはり昨年の原油高から始まり、アメリカのサブプライム問題に端を発する金融不況のあおりで影響を受ける不況業種の中小企業対策をどうするかが一番の課題です。江東区でも昨年の8月20日から経営安定資金を利子補助率2.2パーセントでスタートし、今年の3月31日まで行いますが、不況が長引くことが予想される中で、新たな支援を行うべきと主張しています。また公共事業における地元企業対策をしっかりとやるべきと、平成21年度からはなお一層地元企業育成のための予算を拡大していきたいと考えています。

④その他

その他本区の取り組みとしては、基本構想・長期基本計画の策定、亀戸銀行跡地の開発や商店及び観光振興の推進、認定こども園と高齢者施設の整備や歩行喫煙禁止条例の制定、南北交通問題や組織改正など、やるべきことがいっぱいあります。一つ一つを区民が納得できるものとして全力投球で取り組んでいく決意です。

日々の活動

★平成20年第四回 区政報告会開催



年4回、定例会の前後に行っている昨年最後の区政報告会を、12月15日(月)、亀戸文化センターの5階研修室にて開催されました。50名ほどの参加者があり、会場は満席で活発な質問も行われ、有意義な意見交換をすることができました。特に今回は、定例会の一般質問

や委員会の中で行われる課題を整理してご報告し、来年度の予算編成、墨東病院問題、教育・福祉・環境対策など、幅広く取り上げ時間が足りませんでした。熱心に聞いて頂きました。環境問題では、昨年夏休みに区内の43校全部の5年生が行った、カーボンマイナス子どもアクションが、エコ活動として子供達に浸透して、東京都全体に及ぶ活動になることを報告し、大事な点は大人がまず良識ある行動にとるべきとの意見も出されました。

★視察報告

閉会間近の質問では、豊洲にできる予定の総合病院についてと南北交通問題の質問があり、病院については、区として周産期医療を含めた産科と小児科の設置を要望していくことと、JR越中島線の有効利用はぜひやるべきと、鋭意努力している旨を報告しました。

①国内都市行政視察(秋田市・葛巻町)
8月の27日から29日に、秋田市

の子育て支援事業と葛巻町の環境事業を視察してきました。秋田市では、駅前にある子ども未来センターを視察し、子育て支援の中心的な役割を果たす機能とはどういうものか、またニーズに合った施策の展開をタイムリーに行うことの重要性と子育て支援のクーポン券の利用について視察しました。



秋田市子ども未来センター

←木質バイオガス化発電設備



②柏崎刈羽原子力発電所を視察
11月4日、東京電力江東支社の協力を得て、柏崎刈羽原子力発電所を視察してきました。昨年7月

私が委員長を務めます、南北交通・放置自転車対策特別委員会で、2か所の視察に行きました。

①日暮里・舎人ライナー

10月16日、荒川区の日暮里駅と足立区の見沼代親水公園を結ぶ日暮里・舎人ライナーを視察。案内軌条式鉄道(新交通システム)として注目されており、道路特殊街路事業として、都市計画事業で整備できる点が特徴。本区悲願の南北交通問題の解決のための有効な手法の一つといえます。

②JR越中島駅・潮見駅エレベーター設置場所及び潮見第一自転車保管場所

12月9日、区民から要望の両駅のエレベーター設置工事の現場を視察。特に潮見駅は最近マンション増加で人口が急増、改札口の改良工事の必要性も主張。保管場所は移転先の必要性から現状を視察。



16日に発生した新潟県中越沖地震の被害から炉を停止して、住民に納得がいくまで徹底的に検査と修繕を行い、どのような信頼関係を醸成してきたのか、また国、地方自治体の対応、住民への説明責任など、その後の展開を視察してきました。また今回はまだ炉が停止している状況の中で、発電所内部まで視察ができ、原子力発電の構造について詳しく知ることができました。

無資源国の日本にとって、エネルギー問題は最大の課題です。この問題こそ、国と地方自治体が一体となって議論すべきと、その重要性を再確認しました。



皆様の「意見」が重要視されています。